

硫黄鳥島

○概況（平成 17 年 7 月）

16 日に行った観測では、従来から見られていた噴気が認められた程度で、火山活動に異常はありませんでした。

16 日に気象庁長崎海洋気象台の観測船「長風丸」から行った遠望観測によると、硫黄鳥島の硫黄岳火口（島の北側、図 1）とグスク火山火口（島の中央部）から弱い少量の白色噴気が確認され、風下側にあたる島の西側では硫黄臭が認められましたが、火山活動には特に変化は認められませんでした。また、島の周辺に変色海域は認められませんでした。先月 6 月 22 日に海上保安庁が行った上空からの観測でも、硫黄岳火口とグスク火山火口の西側火口縁からごく弱い少量の白色噴気が確認されています。

なお、気象研究所と東京大学地震研究所が共同で実施している地震観測によると、期間中の地震活動には特に異常はみられませんでした。



図 1 硫黄鳥島 硫黄岳火口の状況（2005 年 7 月 16 日、島の西側海上から撮影）
弱い少量の白色噴気が認められた（赤丸の部分）。

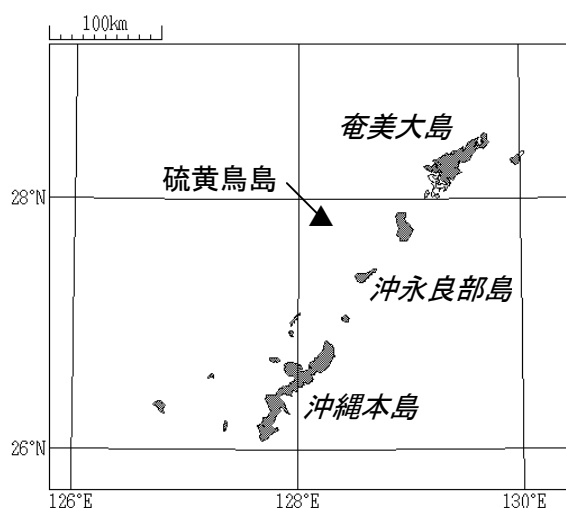


図 2 硫黄鳥島 島の配置

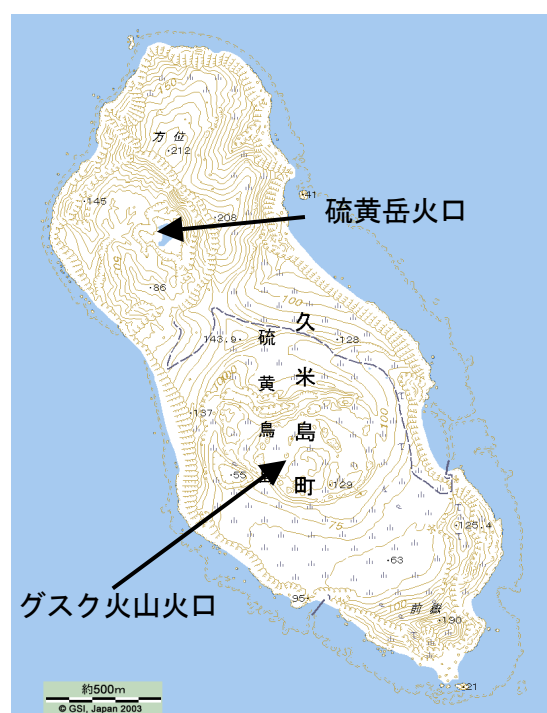


図 3 硫黄鳥島 火口位置図